洋上風力発電の導入拡大に向けた取組

- 地内系統の増強に加え、**広域連系を強化**し、生み出した再エネ由来電気を送電。

○**豊富な洋上風力発電のポテンシャル**を最大限活用するためには、発電した電気を大消費地に送る送電線の増強が必要
○効率的な長距離送電のため、超高圧の**海底直流送電の導入**がカギ
○海底直流送電については、**国の「GX実現に向けた基本方針」において、２０３０年度を目指して整備を進める**との方針が示されるとともに、電力広域的運営推進機関の**「広域系統長期方針」で日本海ルートと太平洋ルートの新設**が示された。

広域連系系統のマスタープラン
（電力広域的運営推進機関）

北海道→東京、九州→関西・中部など、
大消費地への連系線等を中心とした増強

①北海道～東北～東京ルート
（日本海ルート）**400万kW**
②北海道～東北ルート
（太平洋ルート）**200万kW**
③東北～東京ルート
（太平洋ルート）**400万kW**

既設90万kW
（北本連系：60万kW
新北本連系：30万kW）

新々北本連系
＋30万kW増強
（2027年度予定）

※1GW=1,000MW=100万kW